

専任教員教育研究業績

平成 29年 4月 13日

氏名	ふりがな	所属	職 位	性別
岡元 実和	おかもと みわ	保育学科 通信教育課程	助 教	女

小田原短期大学における担当科目名

「音楽表現ⅠA」「音楽表現ⅠB」「音楽表現Ⅱ」

学 歴	
平成8年4月	国立音楽大学音楽学部声楽学科入学
平成12年3月	国立音楽大学音楽学部声楽学科卒業
平成16年8月～9月	イタリアオルテバロックマスター受講
平成25年4月	北翔大学大学院生涯学習学研究科入学
平成27年3月	北翔大学大学院生涯学習学研究科修了
平成8年4月	国立音楽大学音楽学部声楽学科入学

教 育 歴 ・ 職 歴

名 称	期 間	教 育 内 容 又 は 業 務 内 容
サンロッコアカデミアオーケストラ	平成11年4月～平成19年4月	専属ソプラノ歌手として活動
クラヴィチェンバリスティカボローニャ音楽院	平成17年9月～平成20年9月	クラヴィチェンバリスティカボローニャ音楽院 非常勤講師
北翔大学生涯学習システム学部学習コーチング学科	平成25年4月～平成26年4月	北翔大学生涯学習システム学部学習コーチング学科非常勤講師
北翔大学生涯学習システム学部芸術メディア学科	平成25年4月～平成26年4月	北翔大学生涯学習システム学部芸術メディア学科非常勤講師
北翔大学生涯学習システム学科学習コーチング学科	平成25年4月～平成27年4月	北翔大学生涯学習システム学科学習コーチング学科非常勤講師
北翔大学北方圏学術情報センター学外研究員	平成25年4月～平成27年4月	北翔大学北方圏学術情報センター学外研究員(共同研究プロジェクト舞台芸術研究グループ)
北翔大学生涯学習システム学科学習コーチング学科	平成26年4月～平成27年4月	北翔大学生涯学習システム学科学習コーチング学科 助手
小田原短期大学 保育学科 通信教育課程	平成28年4月～現在に至る	小田原短期大学 札幌教育センター 保育学科通信教育課程 助教

所 属 学 会 等

名 称	活動期間	活動内容 (役職等の活動を含む)
日本音楽教育学会	平成26年10月～現在に至る	日本音楽教育学会 会員として北海道地区例会 論文発表
日本音楽表現学会	平成26年10月～現在に至る	日本音楽表現学会 会員
北海道人格教育協議会	平成26年4月～現在に至る	北海道人格教育協議会 会員
日本学校心理士会	平成26年4月～現在に至る	日本学校心理士会 学校心理士 (補)

社 会 活 動 等

名 称	活動期間	活 動 内 容
北広島少年少女合唱団	平成25年9月～現在に至る	社会教育団体における音楽教育活動 (指導、指揮)
北海道大学総合博物館 ポプラチェンバロボランティア	平成25年5月～25年5月	北海道大学総合博物館ポプラチェンバロを用いた実演活動
北広島市音楽協会アーティスト	平成25年9月～現在に至る	地域における芸術文化活動
北方圏学術情報センタ	平成26年10月～現在に至る	舞台芸術研究活動

一	る			
担当教科目に関する資格・免許等				
名称	取得年月	取得機関		
学校心理士(補)	27年3月	日本学校心理士一般社団法人 学校心理士認定運営機構		
中学校教員教職免許 第1種音楽(専修)	27年3月	北海道教育委員会		
高等学校教員教職免許 第1種音楽(専修)	27年3月	北海道教育委員会		
研究実績に関する事項				
代表的な著書、論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 「ペルカウゾディ ファリネッリ」	単著	平成17年9月	アソチャツィオーネ クラヴィチェンバリ スティカボローニャ Vol.7	1705～1782年に実在した歌手カルロブロスキ・ファリネッリ(変声前に虚勢手術を施され子どもの声を保ったまま成人し美しい声のソプラノ歌手として生きた男性)の歌唱技術、背景、訓練方法、残された楽譜等の研究することにより現代における声楽の教育現場へ指導法を提案している。
(学術論文) 「声楽指導におけるソルフェッジョの考察」(17世紀からのイタリアにおけるソルフェッジョより)	単著	平成26年3月	北翔大学生涯学習システム学部研究紀要 第4号	ソルフェッジョ(伊語)の持つ学習目的をニコラ・アントニオ・ポルポラの歌唱原理に基づきに考察した。通奏低音を用いた歌唱訓練の特徴である和声感が、曲の与える感性を変化させることに着目し、現代における歌歌唱の指導現場へソルフェッジョの導入を提案している。
(学術論文) 「声楽における指導法の考察」(心身の連繋と心象表現)	単著	平成27年3月	日本音楽教育学会平成26年度8月日本音楽教育学会北海道地区例会 発表	身体を楽器に用いる声楽を指導するにあたり、必要な器官と発達の特徴を整理した。心理的要因と歌唱のつながりに着目し歌唱時における心象の重要性、中でもジョイア(伊語)の重要性を音楽教育心理学、音楽心理学、音楽教育の3つの視点より明らかにした。コアクティブ・コーチング・わざの伝承2つの視点より声楽指導者の持つべきものをまとめ効率的な声楽指導法を提案している。
(学術論文) 「道徳的影響力を及ぼす歌唱指導の一考察」	単著	平成28年3月	北海道人格教育協議会研究紀要第1号	社会的な自己表現を前提とした集団での表現行為である合唱の持つ道徳的影響力に着目し、音楽教育が人格形成に与える影響の在り方を文献考察している。音楽教育が担う情操面の育成なしに、倫理的な問題を多く抱えた今日の日本に明るい未来が開けるとは考え難い。音楽の学習現場における課題の整理及び音楽と人格の形成の関連についての研究と発展が課題であることを結論付けている。
(学術論文) 「北の自然が育んだ歌曲における一考察」	共著	平成29年1月	北翔大学教育文化学部紀要創刊号	日本の中でも(北)にまつわる歌曲の実演を行うことで、日本歌曲の在り方を考察した。山田耕作の作曲技法の視点より、日本歌曲における歌詞の扱い方を文献考察し、歌曲の礎である詩の扱い方を明確にしている。
(研究紀要) 「保育士・幼稚園教諭養成課程における学生と幼児の	単著	平成29年3月	平成28年度「小田原短期大学研究紀要」	言語の発達段階における、おおむね6歳児の発したことばを、およそ半年間にわたり園の協力のもと採集・整理した。そのことばを、保育者養成課程における音

感性を共に育む音楽環境構成の一考察（第1報 幼児のこぼれを表現する）」			楽教材（歌詞）として授業に導入した。授業の実践で生じるメリット及び、その相乗効果の仮説を立てた上で、園児、園における音楽環境及び保育者をめざす学生達の3つの視点において、感性のスパイラルアップを図ることに繋がる音楽環境の構成を目指し研究を開始した。本稿はその第1報として、幼児のこぼれを教材に用いた実践授業の内容を、研究資料としてまとめている。
その他（表彰等）	平成14年1月	イタリアサンロココアカデミア専属オーケストラ専属歌手合格	
	平成14年2月	イタリアパレルモ国際声学コンクールセミファイナリスト	
	平成14年3月	イタリアラヴェッロ国際音楽コンクールセミファイナリスト	
	平成14年4月	イタリアナポリアルバネーゼ国際コンクールセミファイナリスト	
	平成14年5月	イタリアピエロカプッチリ記念国際音楽コンクールセミファイナリスト	
	平成14年6月	イタリアオペラリナータ国際コンクールセミファイナリスト	
	平成14年7月	イタリアトリノ国際音楽コンクールセミファイナリスト	
	平成14年8月	オルテバロックマスターコンクール 最優秀賞	
	平成14年9月	フランスコルマル市立ライン劇場専属歌手オーディション1次審査合格	
	平成25年10月	北広島文化貢献賞受賞（北広島少年少女合唱団）	